

## 【小容器からのジャバラグリース充填】

1kg、2.5kg、5kg缶からも充填いたします。

1. 80gジャバラ：1kg、2.5kg、16kg缶から充填
2. 400gジャバラ：5kg、16kg缶からの充填。
3. 詳しくは、係りまでお問い合わせください。

関東物流センター（千葉県印西市）を開設しました。



### 「東日本大震災」

夕方近くになって、区長の石井さんが「明日、九時ごろ来るからね」と、ボランティアの方たちの来訪を告げていった。

自宅裏の路地に沿って、小さな水路がある。この水路にも、大地震の後押し寄せた津波で土砂が溜まり、流れが悪くなって悪臭を放つようになった。

この区域もご多分に洩れず、若者が居なくなりその上この大震災で三家族が避難していった。

翌朝、私どもがスコップや猫車それに土嚢を用意して待っていると、リュックを背負った十五人ほどの若者が軽快な足取りでやってきた。

「おはようございます。今日はよろしく願います」と、リーダーらしき男性が挨拶する。「こちらこそ、よろしく願います。」と、言葉を交わす。

側溝の重いセメント蓋を上げる道具を渡すと

「ほう、これは便利ですね。重い

## 『ボランティア』

蓋も簡単に持ち上がるし戻すときも楽ですね」

そんなことを話しながら、男女半々ほどの若者がスコップで土砂をすくい、土嚢に入れ猫車に積んで集積所に運ぶ。

一連の作業に声を掛け合い、おしゃべりしながら楽しそうにやっている。水路の土砂も次々と取り除かれてゆく。

作業終了後、酒屋のご主人からペットボトルのお茶の差し入れがあり、妻がりんごとお菓子を用意していたので、駐車場は社交場に一変した。

そこに見知らぬワンボックスカーが止まり、中からアラブ人と思しき人が降りてきて、カレーライスを振舞ってくれた。全員に配り終えると、次の集会場に向けて休む間もなく立ち去った。

「こんな素晴らしいボランティアは、初めてだわ」

「呼んでくれてありがとう」

胸に、熱いものが込み上げる。

「若者よ、ありがとう」

## あしがき



ボランティアの若者たちは、愛知、山梨、神奈川県といった遠隔地からそして市内からも高校生が参加してくれました。

ただ、この町の風景も日々を追うごとに変わっています。この写真の左隅に見える二階建ての家も取り壊され、わたしの家の周りにあった家々も次々となくなり、電灯の明かりも少なくなりました。